へ13 1178/119
へ13 1178/120

へ13
1178
119

特
へ13
1178
119

白縫譚

種彦作

芳幾畫

第六十編上

白縫譚六十編叙

きて道学しる申状ぶる孔子の曰六十ゐて耳順ふとは此人六十歳ゐもあらむとされば人ぶ我を譏ても耳ゐ逆ふ語を聞てる人の分量を料知り我徳不徳を省みぶるんと腹の立ざりしこゝろ是段々と年ぶ寄て不見強くなるあるべし此冊子も幸有て六十編ゐも至るにつき長く續くこの手柄のみあて次第ゐ味ぶ淡くなると誹られても美くい作きぬもに手故せひ齢さへ六十をうて耄こゝ筆さえの七十編ゐも賢ぶぶんさ物ゐなるものゆゑ心の欲するところは隨ふ一家言といひ張らん欲さうらて勸善懲悪の矩を踰ぢがさてありえん

庚午孟春

柳亭種彦記

秋作妻照葉

同嫡子満太郎

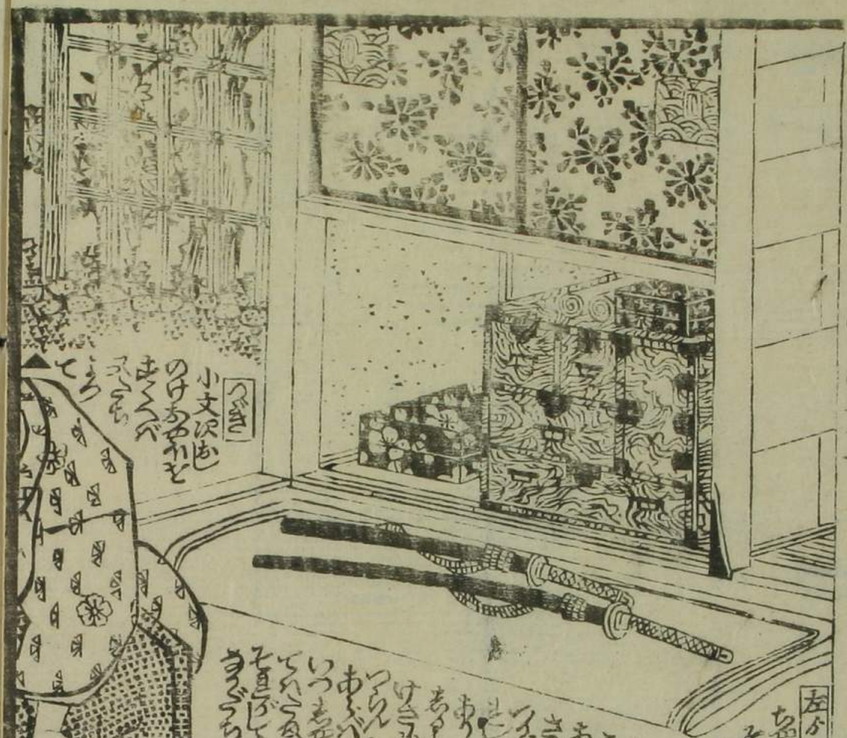
奥村後家津家

同次男半之助

招安
札

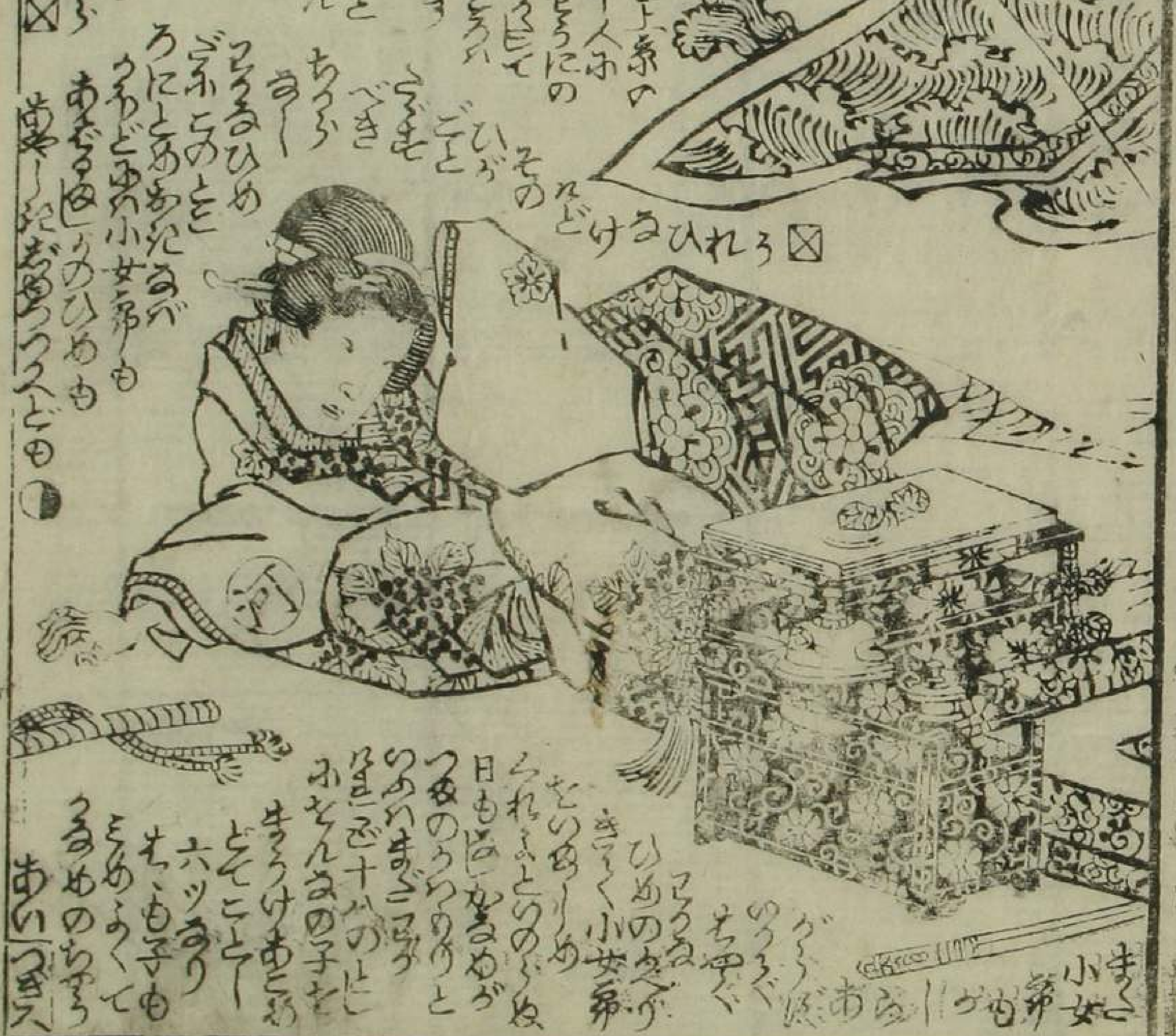
つぎき

二
史記



つぐき

「つゞき」ふう世ろうよりても
[illegible]
ごとくまことふぜんごどろくすあり
[illegible]
小女弟を[illegible]
[illegible]



種彦作 芳幾画

新編 繡像 兩面織花田物語 六編 一東京 仮名垣魯文 編

假名垣八犬伝 二東京 朝倉亭主人 著

古今俳優似顔大全 故豊國翁 画 大錦 白二番

太平記英勇傳 中 錦山々亭有人 著 百番續 惠齋芳幾 画

奴飛藻野語

柳亭種彦作

朝霞楼芳幾画

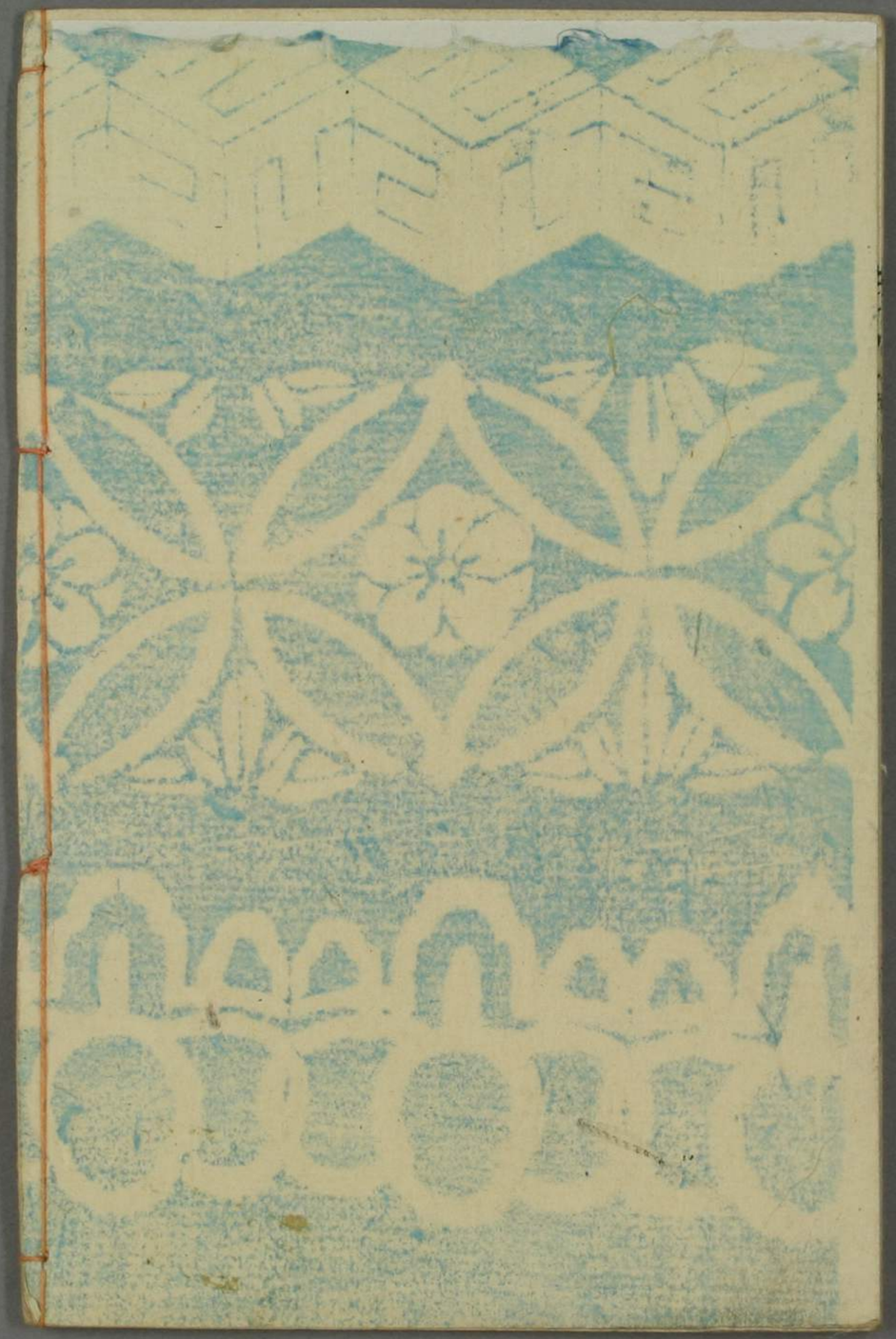
己初冬　發兌

へ13
1178
120

下編一ノ

特
へ13
1178
120

原春太郎
鬼かまの目
佐伯高弥

浪華黄金魚

江戸浅草門前仲町
廣岡屋幸助梓